

## “KIP会トップセミナー”スタート！ ～第1回はPEC産業教育センター山田所長のご講演～

このたび、KIP会では、“KIP会トップセミナー”を開催することとしました。

このセミナーは、KIP会会員をはじめとする県内中小企業の経営層の皆さまに、「経済」「経営」「政治」「健康」「地球温暖化対策」などに関する最新の情報をタイムリーに提供することを目的とするもので、今後、隔月で開催する予定です。講師は、それぞれの分野の最前線で活躍されている方々。ぜひ、ご参加いただき、経営戦略の策定や経営改善などの参考としてください。

第1回は、現在、KIP主催の“現場のムダとり実践講座”にご協力・ご指導いただいているPEC産業教育センターの山田所長にご講演をお願いしました。

工場の現場の“ムダとり”などや職員のモラルアップに苦慮されている皆さま。ぜひ、ご参加ください。

### 第1回“KIP会トップセミナー”開催概要

日 時:12月17日(木)

講演会 16:00～17:30

懇親会 18:00～19:30

会 場:ワークピア横浜 横浜市中区山下町 24-1(山下公園前、県民ホール隣)

TEL 045-664-5252

テーマ:「ムダに気付けば経営を変えられる」

講師 PEC産業教育センター所長 山田 日登志 氏

会 費:KIP会会員 3,000円(講演会のみは1,000円)

一般 5,000円(講演会のみは3,000円)

定 員:300名(申込み先着順)

申 込:ホームページ(<http://www.kipc.or.jp>)からお申し込みください。

※ セミナーに先立ち、14:00から“現場のムダとり実践講座”成果発表会を開催します。どなたにも無料でご参加いただけますので、奮ってご参加ください。

※ 「現場のムダとり実践講座」については、記者発表資料2をご参照ください。

※ 山田日登志氏プロフィール、別紙をご参照ください。



【山田 日登志氏】

「KIP会」とは・・・

平成20年4月、財団法人神奈川中小企業センターと社団法人神奈川県産業貿易振興協会(神産貿)とが統合して「財団法人神奈川産業振興センター(KIP)」が誕生した際に、神産貿の「会員」及び「部会活動」を引き継いで設けた会員組織。

会員の皆様に、KIPの支援事業を積極的に活用していただくとともに、それらの事業に対する評価・提言を行っていただきます。そのことにより、会員企業とKIPが、ともに発展していくことをめざします。

問い合わせ先 〒231-0015 横浜市中区尾上町 5-80

財団法人神奈川産業振興センター企画・経営支援部経営企画室 担当:藤田、上原

TEL:045-633-5062 FAX:045-633-5208

## 【山田 日登志(やまだ ひとし)氏 プロフィール】

### PEC産業教育センター 所長

南山大学卒業後、中部経済新聞社記者、岐阜県生産性本部の経営コンサルタントを経て、昭和53年現場監督者のための研修道場「PEC産業教育センター」を設立。

トヨタ生産方式の創始者大野耐一氏の知遇を得て、その後、独自のカイゼンスタイルを確立。再建を手がけた工場にはキヤノン、ソニー、スタンレー電気、トステムなど300社。

著書:「トヨタ生産方式をトコトン理解する事典」(日刊工業新聞社)、「改善魂を求めて」(同)、「ムダとり」(幻冬舎)、「常識破りのものづくり」(NHK出版)

### PEC 産業教育センターとは

山田日登志氏が1978年(昭和53年)に設立した研修センター。センター開設以来、「トヨタ生産方式、作業改善」に関する研修を実施し、これまでに製造業の現場監督者等 9,790 名が研修課程を修了。所在地:岐阜県羽島市福寿町平方1-5 電話:058-397-2531

### 【トヨタ生産方式とは】

元トヨタ自動車副社長の大野耐一氏が、体系化した「徹底したムダ廃除」のための製造技術のこと。トヨタ生産方式では、ムダを加工、在庫、不良手直し、手待ち、作り過ぎ、動作、運搬の7つに大別し、特に在庫のムダが最も廃除すべきものとしている。最短のリードタイム(生産期間)、低コスト、高品質のモノづくりを実現し、大量生産方式から、お客様にタイムリーに製品を提供していく(ジャストインタイム)ことを目指している。

#### 《トヨタ生産方式が生まれたきっかけ》

1945年(昭和20年)頃、自動車業界においてアメリカの生産性は日本の9倍といわれていた。トヨタ自動車の創始者である豊田喜一郎氏は「3年でアメリカの生産性に追いつく」ことを目標に掲げた。これがきっかけとなり1947年(昭和22年)に大野耐一氏が、機械工場において手待ちのムダを発見して機械の多台持ちに着手して以来、徹底的な原価低減のために現場で実証されてきた種々の手法のことをトヨタ生産方式という。

#### 《トヨタ生産方式の2本柱》

トヨタ生産方式は、トヨタ自動車の社祖といわれる豊田佐吉翁の発明した自動停止装置付きの織機思想をもとにした「二本の付く自動化(目で見る管理の実現)」とトヨタ自動車の創始者である豊田喜一郎氏の「ジャストインタイム(必要な時に、必要なモノを、必要なだけ、お客様に提供する)」の思想を2本柱としている。これを製造現場に具現化したのが大野耐一氏である。

#### 《国内の様々な業界に普及》

1970年(昭和45年)代以降、自動車産業はもとより、電機、機械産業等様々な業界においても「JIT方式」などといって、生産現場に導入されている方式である。

参考:「改善リーダー養成講座」編者 PEC産業教育センター 山田日登志 発行 日刊工業新聞社